

コオロギ菓子 店頭に

高経大発ベンチャーが発売

地球環境に負荷の少ない動物性タンパク源として「昆虫食」の普及を目指すフューチャー・ノート（高崎市本町、桜井蓮社長）は20日、食用コオロギのパウダーを練り込んだ菓子「コオロギのゴーフレット」を発売する。J.R.高崎駅構内の土産物店「群馬いろは」で扱うほか、ぐんま昆虫の森（桐生市）や国立科

学博物館（東京都）などで順次販売する。桜井社長は20～22日と27～29日、群馬いろは店頭で販売する。

国連食糧農業機関（FAO）が公表した報告書は、昆虫類がタンパク質やカルシウムを含むため、人口増に抵抗感のある人のために、パッケージデザインをシンプルにした「2030年のゴーフレット」を発売する。JR高崎駅構内の土産物店「群馬いろは」で扱

枚1520円。昆虫食を普及させるため大手同社を設立した。



20日に発売する「コオロギのゴーフレット」

働き方の多様性
高経大生と語る

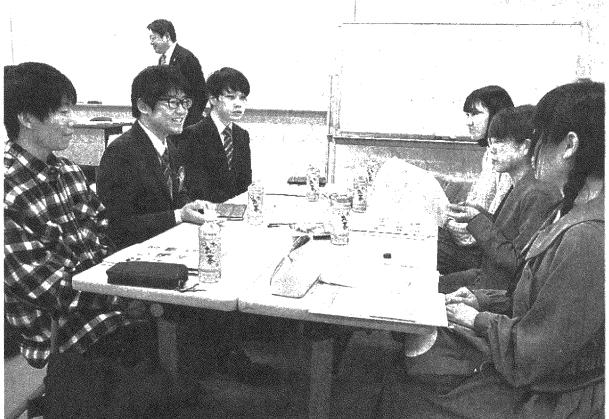
日本公庫

働き方のダイバーシティ（多様性）をテーマにした意見交換会が19日、高崎市の高崎経済大で開かれた。日本政策金融公庫（日本公庫）職員と就職活動を控える同大3年生が、理想的な働き方やワーカライフバランスの実態などを語り合った。

参加者は少人数のグループに分かれて意見交換。職員はダイバーシティの実例として、転勤が2年間免除される結婚特例制度など、ライフイベントに応じた制度を紹介した。学生は自身の仕事

観、仕事のダイバーシティにおける期待や不安を話した。

両者の意見交換会は、女性活躍を主題に通じて社会を知つてほしい」と話した。



働き方のダイバーシティについて意見交換する参加者